

第31回「Qの会」

研修会開催

10月31日香川大学において「Qの会」第31回研修会が開催されました。今回は「コロナ禍での療養指導で困っていることを解決しよう」というテーマで、シンポジストに、糖尿病看護認定看護師の香川芳災病院・西原環先生、高松赤十字病院・横山知子先生、屋島総合病院・岡田亜子先生、糖尿病療養指導士・セントケア四国・藤本さとし先生をお迎えしました。「コロナ禍での療養指導」についてそれぞれの立場から現状と今後の課題について講演が行われ、引き続き質問に対し回答して頂きました。コロナ禍によりできなかった、久しぶりの対面での研修会でした。参加者からは「直接、話ができて意思疎通し易く、療養指導において理解し合えた」という意見を頂きました。また、Qの会のスタンプも皆様とお会いし、意見を交わすことができ、本当にうれしい研修会となりました。

研修会アンケート結果

第31回研修会参加者40名のうち37名回答頂きました。

シンポジウムの内容について、「各病院の実態を知ることができ、現場へ活かすことができそう。」「いろいろな情報や気づきがありました。講師について「病棟・外来・訪問の専門の話が聞けてよかった。」「認定看護師の活動や訪問看護ステーションのことがよくわかった。」「という意見がありました。」

時間配分について「コロナ禍の開催で予定通りシンポジウム4つとパネルディスカッション30分できてよかったと思う。」という意見がありました。

今後の研修会のテーマについて「高齢化が進んでいるので、フレイル予防のため運動の実習ができたらいい。」「がんとう糖尿病」「肝疾患とう糖尿病」という意見がありました。

今後の研修会について、感染対策を行い実施していく予定です。アンケート結果を参考にし、より良い研修会にしていきたいと思えます。



香川県糖尿病療養指導士看護ネットワーク「Qの会」

第32回研修会・2022年度総会のご案内
日時：2022年6月26日(日) 13時から

形式：WEBでの開催
メインテーマ：高齢糖尿病患者の看護(仮)

★「Qの会」ホームページ研修申し込みより参加申し込みをお願いします。

学会・研修会のご案内

認定更新のための研修単位が取得できる予定の研修会をお知らせします。

★第63回日本糖尿病学会年次学術集会
日時：2022年5月12日(木)～14日(土)

形式：現地会場(神戸ポートピアホテル他)とWEB配信(ライブ配信・オンデマンド配信)によるハイブリット開催

★第9回日本糖尿病協会年次学術集会
日時：2022年7月23日(土)～24日(日)

場所：国立京都国際会館
会期後のオンデマンド配信

★第27回日本糖尿病教育・看護学術集会
日時：2022年9月17日(土)～18日(日)

場所：大阪国際会議場
ハイブリッド開催予定

コロナ禍における糖尿病療養指導を考える

香川芳災病院 糖尿病看護特定認定看護師 西原 環

新型コロナウイルス感染症の流行により、糖尿病患者にもさまざまな影響が出ています。定期受診回数の減少は、評価指標がなく血糖コントロール状況や合併症の確認ができず、薬物療法の調整による血糖変動の是正ができないなどの影響があります。さらに食事療法や運動療法の変化、社会的孤立感、感染への恐怖、モチベーションの低下など心理的にも影響を及ぼしています。

新型コロナウイルスに限らず、糖尿病患者の感染症悪化の原因は主に高血糖だと考えられています。高血糖状態が続くことで、①好中球の貪食機能の低下、②免疫機能の低下、③血流の悪化、④神経障害の影響、⑤コルチゾールなどのホルモンやサイトカインなどによる血糖値のさらなる悪化が起るため、普段から良好な血糖コントロールの維持が重要です。

また、コロナ社会での療養生活の変化に伴い、指導も柔軟に変化させていく必要があります。糖尿病と感染症の関係についての知識の提供や、シックデイ対策、セルフモニタリング指導、セルフケア確立を目指したフットケア指導、ストレスマネジメント指導など変化する社会情勢のなかで適切に情報を取り入れながら指導を工夫し、糖尿病患者の意識の向上と重症化予防につながる指導の継続が大切です。

今回コロナ禍における糖尿病療養指導を考えることで、改めて日頃の療養指導の重要さを実感しました。ある患者からは「仕事も在宅勤務になり、外出もできず、久しぶりに会って話すことができ気分がすっきりしました。」との言葉がありました。知識の提供だけでなく、目の前の患者に寄り添い、ありのままを受けとめて理解し支えることが支援者の役割であると再認識しました。これまで以上に患者が来院した機会を大切にして療養指導を行いたいと思います。

◆編集後記
長期の新型コロナウイルス感染症の拡大にて各自感染防止策に取り組み、引き続き、コロナに負けないように頑張ってください。

小松原たか子・木村裕美・串田久美

発行所 香川県糖尿病療養指導士看護ネットワークの会

http://www.qnka.or.jp

コロナ禍における糖尿病療養支援
 (外来看護師の立場から)
 屋島総合病院 糖尿病認定看護師 岡田 亜子

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が広がるなか、当院では2020年秋より発熱患者専用の陰圧診察室(テント)を病院駐車場に設置しました。事前に発熱の連絡があった患者様は、テントでCOVID-19の検査を行います。陰性確認後、通常の外来受診をします。感染対策には標準予防策が基本であり、当院では感染管理認定看護師が中心となり、適切に個人防護具が着脱できるようにスタッフ一人一人チェックをし、合格すれば「PPEマスター」と認定されます。

定期外来受診に関しては糖尿病患者様に限らないことですが、新型コロナウイルス感染をおそれ、受診間隔を伸ばしたいという方が増えました。処方のみ調剤薬局にFAX送信する件数も一時は多くありました。インスリンの針や血糖測定の備品・消毒綿は外来へ取りに来て頂いていたので、その際に療養支援できるよう短時間でコミュニケーションを図るようにしてきました。また自己注射指導の際には、患者と横並びになり距離を取って説明しました。フットケア外来では、手袋・エプロン・マスクはしていましたが、新たに必ずゴーグルをするようにしました。

ある患者さんは、一年前から体調の変化に気づいていましたが、「コロナが気になり病院受診ができなかった」と言われ、受診された時にはHbA1cが16%、血糖300mg/dl以上と高血糖状態でした。その後インスリン導入し治療継続されています。別の患者さんは、もともと糖尿病治療中(内服のみ)でしたが、新型コロナウイルス感染症に罹患しステロイド治療を行い高血糖となりました。退院後も血糖は高めであったため、自己注射薬の注射が開始となりました。高齢であり注射手技の指導に時間はかかりましたが、HbA1c6.9%からの4%コントロールされています。

今後の課題としては、通院を控える患者様への働きかけ、感染対策の継続、入院中の面会が禁止であることから退院後の家族への関わり(退院時指導等)等検討していく必要を感じています。



コロナ禍の療養指導を考える病棟看護師の立場から
 高松赤十字病院 糖尿病看護認定看護師 横山知子

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、当院の内分秘代謝内科の入院患者も減少傾向となりました。血糖コントロールが必要である場合においても、感染に対する恐怖心などから入院に対して否定的な感情を持つ患者さんが多くおられました。また入院されたとしてもなるべく短期間を希望、外出制限などにより運動療法が行えないという現実もあり、入院での十分な教育が行えていませんでした。また2泊3日で実施している糖尿病教育入院についても、蔓延防止措置などの影響もあり令和3年3月から9月まで開催できないという状況にありました。病院のベッド管理の方針なども増え、内分秘代謝内科の病棟以外に患者が入院することも増え、糖尿病の教育に慣れないスタッフからは戸惑いや不安の声も多く聞かれました。

そのような状況の中、コロナ禍での糖尿病患者を受け入れるための問題解決の方策として、①糖尿病看護リクナース会の活用、②家人(キーパーソン)への指導の工夫、③糖尿病看護認定看護師へのコンサルテーション、④看護師特定行為の活動時間の活用を挙げました。①では、各セッションから1名ずつ任命されているリンクナースに教育方法や指導に必要な物品貸し出し方法などの情報提供を行ったり、糖尿病についての知識のベースアップのためにミニテストを開催したりしました。②では、手技に関するものについては本人の携帯電話で動画を撮影したり、退院時に迎えにいられた時間を有効活用するなどして対応しました。③では、相談されたときには丁寧に対応し、次からも相談したいと思えるような対応を心がけました。また、内分秘代謝内科の医師にも当該病棟以外のスタッフに対して指導を行っていることを伝え、看護師の成長を見守ってもらえるように伝えました。④では、自身が特定行為研修の修了者でもあるため、その活動時間を活用して糖尿病の患者さんに関わる機会を増やすように努めました。

問題解決のために日々努めています。まだまだ新型コロナウイルス感染症については終息が見えない状況です。引き続き状況に合わせてタイムリーに対応を行い、糖尿病看護認定看護師として、特定行為研修修了者としてスタッフの役割モデルとなるように活動を継続していきたいと考えています。